
雨

切原美樹

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

雨

【ZINEアーティスト】

Z2520F

【作者名】

切原美樹

【あらすじ】

雨の日、傘を忘れた幸村の前に現れた仁王。でも、何だか仁王は上の空で…。「君の心に映る人は、一体誰なんだ?」

(前書き)

悲恋です。…もう少しつづいて感じではないこと題づ(え...)のでそこをふまえて御覧ください。

ザアアア……

「うわあ…降つてきた…。」

朝はすごい晴れていたのに、今は「本当に晴れてたの?」って言つ位の雨が降つていて。

「はあ…何でこいつ言つた日に限つて折りたたみ傘忘れるのかなア。」
鞄の中をあさつてみるとやっぱり傘は無い。このままつっぱしって帰るか?でも、そんな事したら、間違い無く俺は風邪をひく。そんな事になつたら、真田に「たるんどる!…」って怒られるんだろ?うなア。

雨が止むのを待とつとも思つたけど、雨は、強くなる一行。諦めてこのまま帰ろうとした時

「待ちんしゃーい。」

1人の男が、俺を呼び止めた。

「…仁王かい?」

見なくともわかる。同じテニス部の仁王雅治だ。

「ようわかつたのう。」

「ふふ…声を変えて、そんな喋り方、お前位だろ?」

「それもそうじやの…。」

「ククッ」と仁王が笑う。でも、俺は仁王が何故か普段と違つて見えた。

……なんだろ、この違和感。

「ね…君柳生だつたりしない?」

「ふ…やはり、君は騙せませ…」「あ~なワケないかア。柳生はもつと背高いもん。」

仁王は「やっぱダメか」と言いながら俺を見る。

「やういえば、お前さんさうめ、傘差さずで歸りついたじやねー。」

「うん… 実は傘を忘れてね…。」

「ほり… お前さんも意外とぬけてるな。」

珍しいものを見る様な目で俺を見る。

「入つてくか?」

「男同士で相合傘か…寂しいね…」

「…入らないんか?」

「ふふ…嘘だよ、お言葉に甘えて。」

仁王が傘を差し、俺が隣に入る。雨はやはり、強くなる。

強い雨の中、俺たちはバス停に向かう。最初は普通に部活の会話だったけど、いつの間にか、

仁王が黙り込んで、会話が途切れる。俺が何か言つても、「ああ…」しか言わない。

まるで、他の事を考へている様だつた。哀しいなあ…今君の隣にいるのは、俺なのに…。

多分、考へているのは…・・・

「そうじや、奈緒…」

・・・・・ドクン

「じゃなかつた…幸村…」

やつぱり、あの子の事だつたんだ…。

奈緒、と言つのは、戸崎奈緒。仁王の彼女だ。仁王は前は女遊びとかしていただけど、彼女に会つて止めたらしい。しかし、また仁王の女遊び疑惑が出て3日前別れたと言う噂があつた。

正直、チャンスだつて思つた。でもやつぱり、俺はあの子以上には、なれないんだね。

「仁王、戸崎さんのとこ、いってきなよ。」

「？幸村…」

「忘れられないんだろ？確かに、まだ学校に残つてたよ？」

「ツ…！幸村、俺はアイツとは別れたんだ。それにもう、あんな奴

俺の眼中こは「嘘だツ！」

ねえ、仁王、俺の前では強がらなくていいんだ。だつて…俺達は…

「…仲間の前では…強がるなよ…。」

『P—L—L—L—』…

俺が言つた途端、仁王の携帯が鳴る。相手は…

戸崎奈緒

「仁王…出であげて。」

「…・・・」

仁王は無言で携帯を出し、戸崎さんの電話に出る。

『雅治…じめんね、疑つたりして…つう…』

「…奈緒。」

『もつ1回やり直そ…？いつもの場所で…待つてるか…ひ…ツ。』

「…・・・」

「仁王、行つてあげて？」

彼には迷いがあるんだ。なかなか1歩を踏み出せない…だつたら俺が、背中を押してあげる。

今の俺には…それしか出来ない…この言つ方法でしか、彼を幸せに出来ない。

「…・・・」

「仁王ツ…！」

気づいて？これが…俺の精一杯。

「…奈緒、今行くからな…」

仁王の優しい声、これは、戸崎さん専用。

「幸村、ありがとう…」

「…そんな事いいから、早く行つてあげて？

「…すまん…」

そう言つと、仁王は持つていた傘を落とし、立海へと全力疾走で走つて行つた。

・・・ねえ、仁王。一つ、俺の願いを叶えて?

「……うう……あああ……！」

・・・・・幸せになつて?仁王・・・

雨はまだ降り続いている。

最初はちょっとといやだつたけど、今は少し心地よい・・・

俺の涙を隠してくれる雨。

だから、今だけは・・・俺の悲しみを洗いながして?

・・・彼の愛しさと一緒に・・・

END

(後書き)

仁王ファンの方すみません。幸村クンも勢いで泣かしちゃいました。
(おい)なんかもう、駄文で…
本当にせんしつ…!!!(土下座)

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2520f/>

雨

2010年10月21日20時53分発行